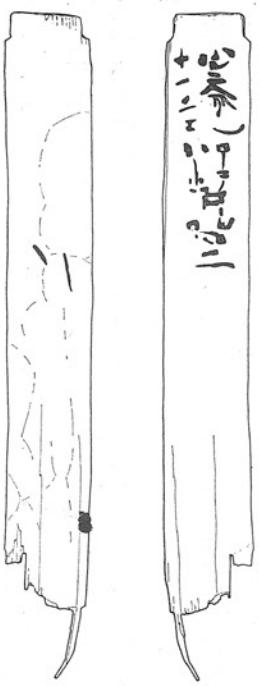
時代の木棺墓、鎌倉時代の井戸等が検出されている。井戸は計四基あり、うち一基は井戸側材まで残存していたが、他はいずれも底部に据えられた水溜用の曲物があったのみである。木簡出土の井戸もこれに属し、上部は破壊され、井戸側材などと共に瓦器椀・土師器皿・須恵器椀等が投棄されていた。木簡は水溜用曲物内より出土した。井戸が廃棄された時期は、鎌倉時代末と考えられる。

8　木簡の釈文・内容

(1)　・「＜咄吠唎 □□＞□＜□ □□×

　　・「＜　［　］　(234)×28×2　039



（黒田恭正）

兵庫・書写坂本城跡（しょしゃさかもとじょう）

1　所在地　兵庫県姫路市書写西坂本字構江

2　調査期間　一九八一年（昭56）一二月～一九八二年四月

3　発掘機関　姫路市教育委員会

4　調査担当者　山本博利・秋枝　芳

5　遺跡の種類　集落跡・城館跡

6　遺跡の年代　平安時代後期、室町時代

7　遺跡及び木簡出土遺構

書写坂本城跡は、姫路市街地より北西へ約六㎞、天台系の山岳寺院である書写山円教寺の南麓に位置する。当城跡のある西坂本から東坂本にかけては、古来、因幡街道沿いの要衝として、また、円教寺の門前町・宿場町として大いに栄えたらしい。坂本城は、室町時代に守護赤松氏の領国支配の拠点として、重要な行政機能を果したらしいが、城跡の実態は今一つ不明であっ

（竜　野）

た。

一九八一年、城跡を東西に横切る形で道路建設計画が持ち上り、姫路市教育委員会では、翌一九八二年にかけて発掘調査を実施した。その結果、東・西両堀跡と西側土塁を検出し、東西規模がほぼ一五〇～一六〇mであることを確認した。しかし、城跡が江戸時代に一時池として利用された関係か、城内部分の遺構の残り具合が極めて悪く、わずかに素掘りの井戸一基・溝二条・掘立柱穴若干を検出するに留まった。

木簡二点と柿経の断片は、いずれも東堀の堀底に堆積した灰色砂層、および灰色粘質土層中に包含されていた。伴出遺物には、ほぼ一五世紀代に収まる備前焼をはじめとした陶磁器類や、各種木製品、および植物性遺物がある。これらの遺物の大半は、坂本城関連遺物として間違いないと思われるが、ただ、東堀が北方に位置する書写山系の谷筋に相当している関係上、上手からの流入の可能性を完全には否定しきれない。

なお、東堀付近から城外にかけての区域から、平安時代後期の集落跡の存在を裏づける遺構、遺物が検出されている。

8　木簡の釈文・内容

(1)　□神王守護　(82)×(15)×2　081

(2)　・□〔梅カ〕
　　・□〔宇カ〕　(40)×(19)×1　081

(3)　「普於其中□　061

(4)　具聞威音王　061

(5)　□□為衆生演□　061

(6)　□種種因縁□　061

9　関係文献

兵庫県史編集専門委員会編「書写坂本城跡発掘調査の概要」（『兵庫県の歴史』第一九号　一九八三年）

（山本博利・秋枝　芳）